

はじめに

本書は昭和54年度の第2回目の実習発掘調査の報告書である。実習発掘調査は、①実習場の選定にはじまり、②現地折衝と行政手続き、③発掘調査、④室内作業を経て、⑤報告書の作成で完了する。院生が調査を主導し、学部学生がこれに参加する形をとる。今回は下村智君が調査全体を主導した。

上記の③～⑤は調査の表立った部分であり、賑やかで華々しい一面を持っている。それに対し、①②は調査の基礎をなし、その性格を決定してしまう重要部分であるが、地味で目立たず、その内容はむしろ苦渋の多いものである。特に①はかなり長期間の地道な活動が必要であるのだが、その認識が不足気味であつたらしく、成果にやや不十分なところがあつた。

それにもかかわらず全体としてかなり充実した実習を実施できたのは、②で現地の皆様の御理解を得ることができたからである。地主の山田團次郎氏・同敏行氏は牧草栽培中であるにもかかわらず所有地の掘削をお許し下さった。西原村教育委員会は関係者の間を御斡旋下さり、西原中学校は寄宿舎の使用をお許し下さった。阿蘇山地の先史文化研究の先達である坂田義廣氏は自らトレンチに降りて学生を指導して下さいました。袴野老人會をはじめ在地の御一同様全体が調査をお励まし下さった。また研究室の出身者である渡辺一雄・柴尾俊介・高瀬哲郎・高山久美子・嶋田光一・村田多津江の諸君が交々来場して指導と激励に当たってくれたことも忘れ難い。次回以降も何とか都合をつけて来会して欲しいものである。

昭和55年9月20日

白木原和美

例 言

本書の編集は主として下村があたった。遺物の整理及び実測、拓本、トレースは参加者全員で行なった。本文の執筆者は文末に記名した。調査参加者は以下の16名である。

白木原和美 甲元真之 中村愿 下村智
西住欣一郎 宮本千絵 永田次郎 柳原真由美
荒牧宏行 吉永明 河野法子 鳥越のり子
永目尚子 古城史雄 松尾法博 米倉秀紀

本 文 目 次

序 例言	〈縄文土器〉…………… 8
一 遺跡の位置と環境…………… 1	〈石器〉……………11
二 調査の目的と経過…………… 3	〈弥生土器〉……………13
三 調査結果の概要	四 まとめ……………14
1 層序…………… 5	付 1 塩井社周辺遺跡……………15
2 集石遺構…………… 7	2 西原村内出土の縄文土器……………19
3 出土遺物	3 秋田原出土の壺棺……………22

図 版 目 次

図版 1	上 塩井社遺跡遠景（東から）	下 塩井社遺跡近景（西から）
図版 2	上 k-4区発掘状況（南から）	下 d-4区遺物出土状況
図版 3	上 f-1区集石遺構（北から）	下 f-1・2区集石遺構出土状況（東から）
図版 4	上 縄文土器(1)	下 縄文土器(2)
図版 5	上 弥生土器（含周辺遺跡出土弥生土器・土師器）	下 石器（含周辺遺跡出土石器）
図版 6	上 第4地点（塩井神社）	下 第3・4地点出土縄文土器
図版 7	上 西原村内出土縄文土器（桑鶴遺跡）	下 西原村内出土縄文土器（村内各遺跡）
図版 8	上 秋田原壺棺出土地点	下 秋田原出土壺棺・蓋石